平成27年度発達障害に関する教員の専門性向上事業

坂町立横浜小学校の取組

研究テーマ
主体的な学びを育む坂町授業システムの構築
～　課題発見・解決学習の創造　～

授業実践報告

1　実態把握

A児・・表現が苦手。言いたいことをうまく話せず自信がない。語彙数が少ない。自己評価が低い。
B児・・表記苦手。文字学習（ひらがな・漢字）不得意。集中できる時間が短い。
C児・・意欲高いが落ち着きなし。書き間違いが多い。自己中心的。

支援を通して・・・

2　目指す姿

A児・・意欲が高まり，言葉を作り出す喜びを感じる。
B児・・意欲が高まり，集中して学習できる。
C児・・見通しをもち，落ち着いて学習に臨める。

授業実践報告

3　実践内容

（1）授業プラン

◆第１学年国語科　単元名「ことばあそびうたをつくろう」
◆本時の目標

「たべもの」を読んで，擬声語・擬態語を入れた言葉遊び歌を作ることができる。

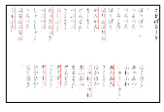
◆指導・支援のポイント
① 学習のゴール（書く目的）を明確にし，意欲をもたせる。
② 普段から生活の中にある言葉に触れさせる。
例『ことばのたからもの』
③ 写真や絵を活用し，イメージをふくらませる。
④ おたすけプリントを用意しておく。
⑤ 関わりを通じて意欲と自信を高める。

授業実践報告

3　実践内容

（2）支援の具体

①【言葉が出てこない➡イメージ化（視覚的支援）】
・具体物，絵，写真
・『ことばのたからもの』
・『ことばシート』

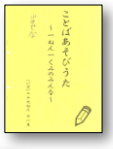


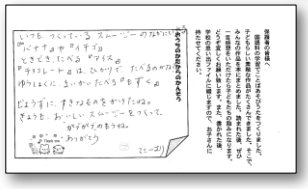
②【書くことが苦手➡書くことの負担を軽減】
・ワークシート（枠）
・モデル（板書）
・本時のめあて優先

授業実践報告

3　実践内容

③【落ち着きなく自信なく➡関わり】
・ペアとの交流（花丸つけ）
・全体との交流（拍手と笑顔）
・保護者との交流（感想）





授業実践報告

4　成果・課題

〇成果
・実態⇒仮説⇒支援⇒成果or課題
・教科のめあて
・意欲＝自信
・普段の生活から言葉の環境づくり

〇課題
・支援が支援にならない
・言葉の環境づくり（読書活動）
・教材研究
・日常生活へ

かんそう　めいじん
〇 おもしろかった
〇 おどろいた
〇 じぶんと　にている
〇 まねしたい
〇 しつもんしたい
〇 もっとこうしたらいい

授業実践報告

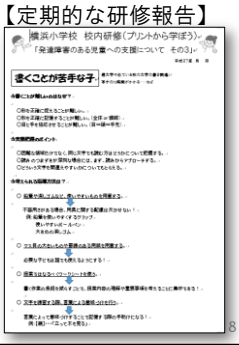
5　今後の改善点

○常に実態を把握し，今，必要な支援を考える。
○言葉の環境づくりをする。
○教材研究に取り組み，ねらいを達成できる支援を考える。
○付いた力を意識させ，日々の生活の中で生かすことのできる機会をつくる。

普及・啓発①拠点教諭の取組

【事前研修・授業公開】

【定期的な研修報告】



普及・啓発②拠点教諭の取組

【外部と連携して校内研修を企画】
○広島県発達障害地域支援体制マネジメント事業
（広島県発達障害者支援センター）

①１２月９日実施
『児童の特性に基づく支援の在り方について』

②２月１７日実施予定
『発達障害のある児童への環境支援について』

普及・啓発③拠点校の取組

【授業公開（協議会）】

【町内ネットワークを利用して町内小・中学校に啓発】

今年度の成果・課題

	成　果	課　題
授業実践	・言葉を楽しむ ・実態⇒仮説⇒成果を共有（研修） ・学級経営（関わり）	・言語環境 ・支援の見極め（定期的に実態把握） ・個人差に対応する一斉指導の工夫
普及・啓発	・校内外にネットワークを利用し，情報を定期的に発信	・保護者への啓発 ・合理的配慮の明確化 ・環境づくり ・町内の児童の実態把握

次年度への展望

	取組の重点
授業実践	・『実態把握→仮説→実践→振り返り』を大切にし，今の実態にあった支援を見極める。 ・通常の学級でできる支援方法の充実
普及・啓発	校内・・教職員・保護者へ定期的に発信（参観日や研修会、資料配布） 学校環境の整備（ユニバーサルデザイン） 個別の指導計画，個別の教育支援計画の充実 校外・・各校コーディネーターと連携し，ニーズを把握 校内研修などの講師 町内ネットワークを活用した情報発信